

校長室だより
NO. 30
令和元年10月15日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高須 亮平

「書く」楽しさ・「受け取る」喜びのある手紙はどうなるか？

「校長室だよりNO. 24」で、今年度の全国学力・学習状況調査の結果をお知らせしました。本校の6年生の学力は全国平均を上回り、たいへん良好ということでした。この調査は、中学校では3年で実施されています。その国語の問題の結果がちょっとした話題になっていますので、今回、触れたいと思います。

その問題は、「封筒に宛名を書く」というもので、その正答率は57.4%でした。問題の中で、「全国中学生新聞」の「声の広場」という架空の場面が設定され、そこに郵送（封書）で投稿するというものです。その「声の広場」への投稿先として、次のように書かれていました。

■投稿先 〒100-6543 東京都千代田区中央3 全国中学生新聞「声の広場」係 FAX 000-123-xxxx メール zenkoku@xxx.xx.xx	▼イラストははがき大。「みんなの短歌」 は1通に2首まで。 ▼氏名、学年、住所、電話番号を明記。 イラストはペンネーム可。
---	--

書かれている内容は、宛先の住所、宛名、FAX番号、メールアドレス、投稿上の留意点などです。この中から縦向きの封筒の表書きに必要なものを取捨選択して宛名を書くようになっていきます。また、そのときの条件に次の2つが与えられていました。

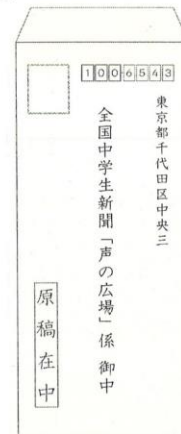
- 条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと
条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと

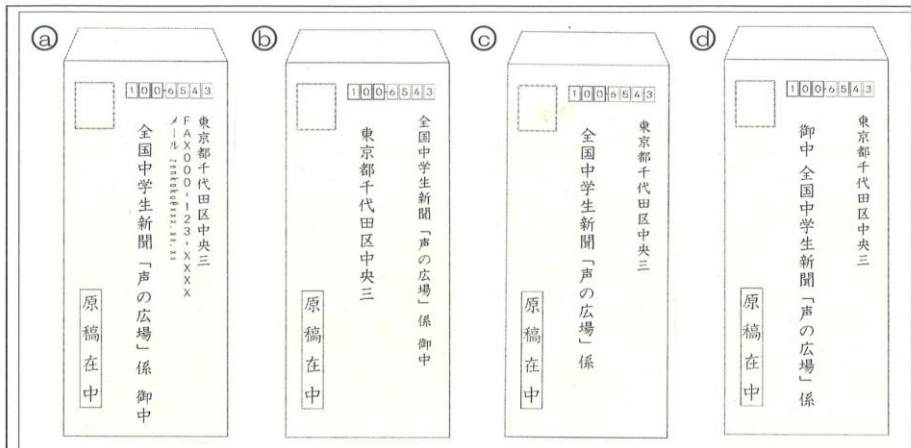
ここまで、条件が与えられていれば、そんなに難しい問題ではないように思えます。正答は、当然のように右のようになります。ここで、次の4つが正答と判断する条件としてあげられました。

- ① 投稿先の名前と住所の正しい内容を楷書で書いている。
- ② 投稿先の名前に敬称を適切に付けて封筒の中央に書き、住所を封筒の右側に書いている。
- ③ 投稿先の名前を住所より大きく書いている。
- ④ 縦書きで書いている。

この4つの条件を満たす答え（15.6%）がよいのですが、条件①、②、④を満たす答え（39.1%）でも、条件①、④を満たし、条件②について投稿先の名前や住所を書く位置が偏っているもの（2.8%）でも正答となりました。合わせて57.4%です。

誤答であった約4割の子どもは、どのような解答をしていたかと言いますと、投稿先の名前や住所を書く際に、誤字があるもののほか、次ページの④のようでした。これは、投稿先の住所にFAX番号やメールアドレスなどを含めて書いているものです。⑥は、投稿先の名前と住所の位置を逆にして、住所を封筒のまん





中に書いているものです。㉑は、投稿先の名前に敬称を付けずに書いているもので、問題で与えられた条件2を理解できていなかったようです。㉒は、敬称を誤った位置に付けて書いているもので、㉑とともに、敬称の意味を理解できていないことが分かります。この問題の結果から、手紙の基本的な形式を理解し、文字の大きさや配列に留意して書くことができるようになる必要を感じます。いろいろなメディアは、「電子メールの普及で手紙を書く機会が減った社会風潮を反映している」とコメントしていましたが、中学3年生の57.4%の正答率はやや寂しい結果と感じます。

「手紙」と言いますと、小学2年の国語の教科書に『おてがみ』（アーノルド・ノーベル）という物語文が掲載されています。その物語は2匹のカエルが登場し、名前は「がまくん」と「かえるくん」と言いました。そのがまくんが、「ぼく、おてがみをもらったことがないんだ」と悲しそうに言いました。それを聞いたかえるくんは急いで家に帰り、がまくんに手紙を書きました。そして、再びがまくんのところに行き、手紙が着くのを2人で待つのでした。でも、なかなか着きません。それは、配達を頼んだのが「かたつむりくん」だったからです。がまくんの悲しげな様子を見て、かえるくんが「だけれど、きみにおてがみをくれるかもしれないよ」と励ますのですが、がまくんの悲しさはどんどん高まりました。そして、とうとう、かえるくんは、「ぼくが、きみにてがみを出したんだ」「しんあいなるがまがえるくん。ぼくは、きみがぼくのしんゆうであることをうれしくおもっています。きみのしんゆう、かえる」と、秘密の手紙の内容を言ってしまいました。しかし、そのことで2人ともとても幸せな気持ちになり、かたつむりくんが着く4日間、かえるくんの手紙を待つという物語です。この国語の授業の後に、友達と手紙を交換するような場があれば、子どもは、手紙を「書く」楽しみ、手紙を「受け取る」喜びを感じることができます。そして、冒頭のような誤りも減っていくことでしょう。



「ぼくが、きみにてがみを出したんだ」「しんあいなるがまがえるくん。ぼくは、きみがぼくのしんゆうであることをうれしくおもっています。きみのしんゆう、かえる」と、秘密の手紙の内容を言ってしまいました。しかし、そのことで2人ともとても幸せな気持ちになり、かたつむりくんが着く4日間、かえるくんの手紙を待つという物語です。この国語の授業の後に、友達と手紙を交換

するような場があれば、子どもは、手紙を「書く」楽しみ、手紙を「受け取る」喜びを感じることができます。そして、冒頭のような誤りも減っていくことでしょう。

世の中は、どんどん便利になっていきますが、その中で、欠けていくものもあります。「書く」「受け取る」というような手紙のやりとりは大切にしたいものと思います。